

柔道の佐藤さん、全試合一本勝ちで全国快挙

町内で東川町柔道スポーツ少年団、柔道を指導している整骨院経営の佐藤克広さん(56)＝北町3丁目Ⅱが、第38回日整全国柔道大会(10月13日、東京講道館)



で、北海道代表チームの大将として本道チームを3位入賞に導く大活躍。全国5人だけという優秀選手賞も獲得し、ダブル受賞の快挙を果たしました。

第37回北整全道柔道大会(8月、千歳市開基記念総合武道館)の50代の部に5年連続出場、連続優勝を果たし、今年も全国大会に出場。全道大会の年代表別優勝者5人で結成する団体戦の大将として、全試合一本勝ちで北海道代表チームに20年ぶり入賞をもたらす大活躍。

「去年優勝の強豪、近畿代表Aチームが準々決勝で四国代表に敗れたことでツキが回ってきた。準決勝では中堅副将の2人が試合中にけがをしてしまい、もうダメかと思った」と辛勝だったそうです。

日整全国大会の2週間前には、日本ベテランズ国際柔道大会(第11回日本)

マスターズ柔道大会) 9月20、21日・東京講道館ⅡのM6・90kg級に初出場で初優勝も飾り、年代表個人戦、団体戦ともに全国トップの王者を勝ち取る大活躍。この大会優勝で次回のマスターズ世界柔道大会出場権も獲得しました(18歳各種大会成績参照)。

25年続けている柔道スポーツ少年団の団員は年々少なくなっているそう。「激しいスポーツだから、と最近では敬遠するんです」と残念そう。

南国、ベトナム料理に舌鼓

10月18日、町の日本語研修のために来日したベトナム人研修生が、町地域交流センター(新東川小に隣接)で初のベトナム料理講習会を開きました。メニューは「春巻き」「煮込みビーフ」「豚肉ロール巻き」「黒豆のチエー」の4品。3カ月コースの日本語研修で来日後まだ1カ月の研修生9

来年度の収穫もつれし、12月、期待のワイン新発売

10月11日、町営ブドウ畑で今年のブドウ収穫を行いました。昨年収穫したセイベル種の東川ワインは、町民先行予約分の引き換えを含めて、いよいよ12月1日から2千800本を発売スタートです。



昨年からは岩見沢市内の10R(トアール)ワイナリー経営、ブルース・ガッツトランプさん、ブドウ農場経営、中澤一行さん2人に栽培指導を受け、東川振興公社が100%東川町産ブドウ原料でワイン委託醸造を始めています。本格的な栽培管理を導入し昨年の出

人は朝早くから大張り切り。女性8人は美しい民族衣装、アオザイ姿で町民を歓迎しました。日本語能力試験1級合格を目指しているというグエン・ティ・ゴク・ハさん(22)は「どれもベトナムを代表する料理です」と流ちょうな日



本語で料理の特徴を紹介しました。暑い気候ならではの少し酸味が効いている春巻き、あんみつぜんざいのような甘いデザート、黒豆のチエーなど、どれも日本人好みの味付け。「どれもおいしい」と好評でした。

サンタクロースがやってきた

10月13日、町地域交流センター(新東川小隣り)にフィンランドからサンタクロースがやってきました。



「サンタ・プロジェクト」のサンタクロースからのおくりもの」と題して開きました。サンタクロースのふらふらと、フィンランドラッピ県ロヴァニエミ市から、エスコ・ロトウヴォネン市長、サンタクロース(ヴェイヨ・ウーシタロさん)とサンタクロースアテンダー(キルステイ・ウーシタロさん)、ロヴェルミエ市の民族合唱団・ベルカント合唱団8人ら13人がやってきました。

美しいコーラスでフィンランド民謡を披露。サンタクロースが登場すると、子どもたちは「本物?」とびっくり。

「年はいくつですか」などの質問に、「300までは数えたんだけれど、その先は分からなくなっちゃったよ」などと茶目っ気たっぷりに答えていました。ラトビア民謡をもとにした絵本「もりはいいところ」(東川町、三木卓著)の朗読もしました。挿し絵を描いたラ

トピア芸術大学生のデイアーナ・カイヤカさんもラトビアから来町、学生3人と一緒に朗読に加わりました。

サンタプロジェクトは、3年前の東日本大震災後、関東学院大学の学生が中心となって始まりました。その後ロヴァニエミ市も賛同し、本場のサンタクロースが来日して各地を訪れ、一緒に励ましを届ける活動、震災の記憶を風化させない取り組みが続いています。

通信制の星槎大学高校郡山学習センターの生徒4人も来町し、中学生だった当時の思い出、その後の現地の様子なども話しました。

発展の礎築いた家畜に感謝

9月29日、町畜産振興協議会(会長・樽井功東川町農協組合長)が主催して南町2丁目の忠別公園家畜感謝の碑で家畜感謝祭を行いました。年一回、町の礎となった家畜を慰霊するために開いています。町、町議会、町農業委員会、東川町農協、町内の酪

大はしやぎ、めだかクラブのハロウィンパーティー

10月11日、小学生のための英語クラブ「めだかクラブ」が農村環境改善センターでハロウィンパーティーを開きました。



約140人の小学生と幼児、お母さんで会場はいつぱい。町のALT、カトリーナ・カイラさん、8月に赴任したテイラー・バネットさん、ヘイリー・ストツツさんの3人に加え、道内6市町からALT(外国語指導助手)の皆さんが悪魔や魔女、骸骨人間などにふんして登場しました。子どもたちはちよっぴり怖いお化け

巡って大はしやぎ。日本語を学びに来ている台湾、インドネシアの研修生も会場に遊びに来て、大にぎわいのひと時を楽しみました。

農家、養鶏農家ら関係者約20人が出席しました。席上、樽井組合長は「昭和50年までは町内で豚も馬も飼っていた。牛肉、豚肉、鶏肉いずれも、その命をいただいて私たちの体が支えられている」とあいさつ。かつて町の発展を支えてくれた農耕馬や豚、鶏など



家畜に感謝を込めて慰霊しました。